



※一般質問の内容は議員自身が9月定例会議事録に基づき記述しています。
令和3年9月定例会を選択すると視聴できます。

議員所属の会派名は、9月定例会時の会派名を掲載しています。

一般質問



わたなべ よしまさ
渡辺 佳正
(日本共産党議員団)

第6波への備えと今後の感染症対策として、PCR・抗原検査の充実と陽性者の生活支援を

問 ①無症状者のPCR検査を3万円の立替えなしで受けられるようにならないか。②検査数を増やして検査料金を抑えるために、1回で数人分を検査できるプール方式のPCR検査を導入できないか。③簡易的なPCR、抗原検査キットを全世帯配布または公的機関で無料配布できないか。④陽性者に対する市独自の経済的支援ができないか。

部長 ①②現在の検査体制で必要な検査は実施できているので、3万円の立替え方式を継続し、検体プール方式の導入は必要ない。③国は検査キットに公費投入しないので、本市でも公的負担の予定はない。④自宅療養者には希望により市が食料品等の配布を行い、濃厚接触が判

明した際のクラスター対策や検査に関する者には定期的な安否の確認を行うが、直接的な経済的支援はしない。

意見 感染症対策として必須の検査には、保険が効く体制を求めていく必要がある。安心の日常生活を送るのに、検査キットは必要と考える。

議会に関する市長発言は不適切ではないか

問 議会について、「パンク」「整備工場入り」などと言ったり、「定数削減」に踏み込む発言は不適切ではないか。

市長 現職議員の度重なる逮捕、辞職を受けて、悔しい思い、胸の内を率直に表現した。5人欠員で議会の機能を果たしているのだから定数削減しても立派に運営されていくのではないかと。

問 今、市議会が一丸となって信頼回復に取り組んでいる中、議会を機能していないかのように言うのは不適切。欠員5人の前議員の地域の多くの有権者の声が市政に届いていない。議会の非常事態時の発言として不適切。謝罪と撤回を求める。

市長 謝罪も撤回も必要ないと心得ている。



すずき ひろし
鈴木 弘
(至誠)

コロナ対策～第6波に向けた取組～

問 保健所と市の連携状況を伺う。

部長 市として今後保健所と連携し、市独自の取組として自宅療養者及び濃厚接触者へ食料品などの配布及び濃厚接触者の健康観察を実施することにした。具体的には保健所が把握した食料品などの配布を希望する自宅療養者及び濃厚接触者のうち、外出が制限され生活物資の確保が困難な方に対して保健所が市の担当窓口の連絡先を案内し、市が連絡を受け食料品などの物資の配布をする。また、保健所による健康観察が予定されていない濃厚接触者については、市が看護師を配置し、感染の疑いがなくなるまで継続的に健康観察を実施するとともに、福祉事業所、教育施設、企業及び家族などから陽性者相談を受け、調査をした上で濃厚接触者に該当

しそうな方がいた場合は、市から保健所に連絡し、指示を仰ぐ体制も整え、保健所との連携強化を図ったところ。

問 市が自宅療養者の名簿をもらってコンタクトを取るということではないのか。

部長 感染者情報もしくは濃厚接触者の一覧表を市が手に入れるということではなく、本人の希望により本人から連絡を頂いて市で対応するということになる。

